

## 研究発表空白期間がアカデミア昇進に与える影響分析 ～研究者の属性に関するイベントヒストリー分析～

文部科学省 科学技術・学術政策研究所 第2調査研究グループ 主任研究官 藤原綾乃

### 要旨

本研究は、日本の大学に所属する研究者(人文社会学系、理工系、医学・生物系、総合系)の属性が教授昇進に与える影響について、実証分析を行ったものである。具体的には、researchmap(国立研究開発法人 科学技術振興機構(JST)が提供する研究者データベース)を用い、日本の大学に所属する研究者の研究業績や属性、経験等が昇進に与える影響についてイベントヒストリー分析を用いた実証分析を行った。特に、本研究においては研究発表の空白期間およびその時期が教授昇進にどのような影響を与えるのかに焦点を当て分析を行っている。本研究では、昇進に影響を与え得る要素として、論文数、書籍数、競争的資金の獲得件数などの研究業績の他、性別、研究業績がゼロの年の有無、および研究キャリアにおける研究業績がゼロの時期を設定した。

分析の結果、Scopus<sup>1</sup>に収録されている論文数や書籍数、競争的資金の獲得件数が増えるほど、教授への昇進確率が上昇することが明らかになった。また、予期された通り、研究業績発表がゼロの期間が長いほど、教授昇進の確率は低下することが示された。しかしながら、研究発表の空白は常に教授昇進にネガティブな影響を与えるとは限らないことも同時に示された。すなわち、研究スタートから最初の5年間とスタートから20年から30年の期間に関しては、研究業績がゼロの年があると昇進確率が減少するが、それ以外の時期に研究業績がゼロの時期があったとしても教授昇進には影響を及ぼさないことが明らかになったのである。最初の5年間は、研究者が各々の専門分野で活躍する礎を築き、人的ネットワークを構築する上で重要な時期に該当するためと考えられる。近年、若手研究者は1-2年間の任期付き条件で雇用されるケースも少なくないが、最低でも5年程度安定して研究を行い、論文や学会発表等を行うことができる環境を整備することが急務と考えられる。また、研究スタートから20年から30年の時期の研究発表業績が重要である理由については、教授昇進決定の際に、目に見える形で研究成果が出ていることが求められているためと思われるが、それ以外の時期における研究の重要性を否定するものではなく、アカデミアでの昇進にとって継続的な研究業績が重要であることは言うまでもない。

本研究の成果が、大学に所属する研究者のみならず、研究者人材のマネジメントに係る

<sup>1</sup> Scopus(スコーパス)は、エルゼビアが提供する世界最大級の抄録・引用文献データベースのことであり、全分野(科学・技術・医学・社会科学・人文科学)、世界5,000社以上の出版社、逐次刊行物22,000タイトル、会議録90,000イベント、書籍130,000タイトルに関する6,500万件の文献が収録されている。

政策立案者においても、その戦略策定において資すれば幸いである。

Analysis of the influence of blank period on academia promotion  
~ Event history analysis on researcher attributes ~

2<sup>nd</sup> Policy-Oriented Research Group, National Institute of Science and Technology Policy (NISTEP),  
MEXT  
Ayano Fujiwara

**ABSTRACT**

This study analyzed the factors required for a researcher to become a professor in the humanities and sociology, science and engineering, medicine and biology, and general studies fields. The study focuses on research productivity and analyzes the impact of hiatuses in research production on promotion in universities as well as the time at which such hiatuses have the least impact on promotions. I divided the factors required for promotion into three categories: academic performance (the number of published articles, books, and competitive grants and funding sources acquired), social elements (gender), and elements related to the duration of periods with no research output and their timing.

The results show that the probability of promotion to professorship increases as the number of papers in Scopus, the number of books published, and the amount of acquired competitive funds increase. As expected, longer declines in research productivity reduce the probability of promotion. However, it is not always necessary for researchers to publish continuously throughout their careers; the results show that a decline in research productivity other than during the first five years and the period from 20 to 30 years after the start of the research career has no influence on academic promotions.